

四国巡礼の山旅

銅山越～笹ヶ峰～伊予富士～瓶ヶ森

2008・9・13～15

K・N単独

四国の巡礼は、お遍路さんで有名だが、この山旅は私のお遍路さんだった。春、飯豊連峰にバスで出かけたが、一人旅は旅愁を誘う。山旅も車がないと、どこまでも縦走ができる。四国の山なら積雪期でなければ体力に任せて、行ける所まで目いっぱい歩けばいいだろう。ただ、問題は山中で水が取れないことだ。

12日午後、職場を早めに抜け出して、梅田に急ぐ。高速バスは鳴門に入って雨が降り出した。新居浜には21時過ぎに着いた。その日のうちに登山口までタクシーを飛ばす予定だったが、雨は止まず、駅前のビジネスホテルに泊まることにした。明日の天気も気がかりで出鼻をくじかれた。

9/13 朝は8時過ぎのバスで出発。マイントピア別子から車道を歩き出したが、登山口を見失って、30分のロスタイム。急な登りで高度を稼いでいくがところどころ鉱山跡がある。別子銅山は、明治時代に栄えた。しっかりとした道があり、当時は山岳鉄道がひかれていた。銅山峰ヒュッテは駅舎の名残であろう。

銅山峰ヒュッテから先は水が取れない。500mlと2Lのペットボトルに谷水を詰めていよいよ縦走だ。だが、水を汲んだ谷川でストックを忘れてきてしまった。縦走には必需品だが、またしても、出鼻をくじかれた。銅山越には夫婦一組が日帰りに来ていただけで、結局今回は、縦走するものには最後まで出会わなかった。

昨年、職場の同僚の娘さんが亡くなった。まだ中学生だった。葬儀そのものも立派だったが、同僚のあいさつに感動した。会葬のお礼と、



笹ヶ峰、山頂の祠



銅山越の供養塚

娘さんの思い出を語り、最後に同じ病に苦しむ子らに、ドナー登録を呼びかけた。参列者の多くの涙を誘った。最近、彼が家族と共に、お遍路を始めた。なくなった娘さんの供養をしながら家族の絆を深めている。

その彼に四国の山の一人旅を物好きなど、冷やかされたが、たまにはゆっくり自分を見つめてみよう。退職も間近だが、とりあえず健康である。田舎の母も元気に米寿を迎える。子供たちは独立して、長女には赤ん坊も生まれた。これが幸せなのかもしれない。休日はかわいい孫の顔を見て

いたらいい。贅沢だが人並みの幸せは、自分には似合わない。そう言い聞かせながらも、バスの中で家族にメールを打っている。仲間に誘われた山行でもない。何も一人で来なくても、多少の後悔をしながら山旅が始まる。一人旅は、周りの景色も鮮明だが、自分を見つめる旅になる。自省と自戒の旅である。



朝霧の笹ヶ峰から伊予富士、奥に石鎚山

縦走路は笹が道を被い、ストックがほしい。笹を踏んで何度も足を取られてしりもちをつく。午後になり雲行きが怪しくなってきた。雨がぱらつき、雷もなりだした。テント場を探しながら歩く。予定の時間は遅れがちだ。

一面笹原となり、ちち山を越え、夕暮れ近く笹ヶ峰に着いた。今夜は頂上でテントを張る。少ない水で一夜を過ごさなければならない。頂上には祠があり、幸い新しい500mlの水が供えてあってありがたく頂いた。

9 / 14 朝方、雨は止んで雲海の上に峰々が浮か

び上がった。遠くに石鎚山も見える。又、長い旅の始まりだ。500mlの水で1日を過ごさなければならない。

熊笹の下りが続く。何度もしりもちをつき、ついに足を痛めたようだ。難行苦行が始まる。飛ばす事ができない。笹ヶ峰にも伊予富士にも日帰り登山者が登ってきた。相変わらず縦走は一人である。夫婦連れに会うと、一人旅が惨めになった。伊予富士を過ぎ、瓶ヶ森林道が現れた。林道は縦走路と並行して走るようになる。ドライブの車が目障りになってきたが、忠実に登山道を辿る。予定時間は、今日も遅れがちである。瓶ヶ森は近くに車を止めた、家族連れやグループ登山で賑わっていた。山頂からは石鎚山が間近に迫ってきた。予定の土小屋まで、とても行けそうにない。昨夜はアルコールがなかった。山で飲まない夜はそうないが、今回は禁酒で通すつもりだった。今日は口を潤す程度の水で我慢して歩き続けた。ここはなんとしてもビールが飲みたい。とりあえずビールのある小屋まで行こう。天気も思わしくなく、小雨が振り出した。予定にはなかったが、瓶ヶ森の白石小屋に立ち寄ることにした。朽ちかけた小屋は営業しているようには思えなかった。ありがたいことに、小屋の五右衛門風呂に入れてもらい、ビールを買った。テント場は松山から来た先客がいて、ビールを飲みながら語らう。わざわざ、中秋の名月を山で愛でたいとやって来たという。天気も下り坂で明日、車で松山まで便乗をお願いする。その夜は、雨も上がり時折、満月がテントを照らした。

9 / 15 朝から又、雨が降ってきた。膝が痛み、足も張っているが、もう歩かなくてもよい。車で土小屋から面河溪を周り松山で、山の大先輩、Sさんと再会する。温泉に連れて行ってもらい、昼間からご馳走になる。帰りの高速バスは雨の中で渋滞に合い、終電の帰宅になった。私のお遍路、一人山旅が終わった。



笹ヶ森山頂にて